

土浦わかもののまち
プロジェクト

福祉教育推進セミナー

高校生主体の地域福祉

-高校生による子ども食堂を中心に-

2024年10月22日

土浦わかもののまちプロジェクト

代表 酒井 慶太



自己紹介

氏名

酒井慶太

職業

つくば国際大学高等学校 講師

(地理歴史・公民科)

土浦わかもののまちプロジェクト 代表

趣味・特技

まちづくり・地域活性化・車・記憶力





01

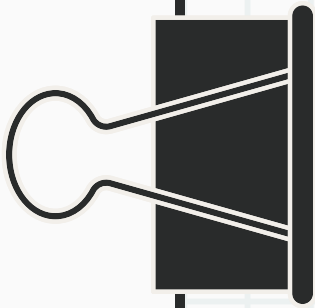
背景



社会で生きる力の低下

- ・インターネットやゲームの普及
- ・スクールバスの普及 etc.
 - コミュニケーション能力の低下
 - 一般常識や多様性への理解不足
 - 自己肯定感の低下
 - 働く際に必要な力の不足
 - 社会で生きる力の低下

子どもたちの社会性の低下



目標

社会で生きる力を
地域の中で育んでゆく

土浦の街の中での活動を通して
人間的に成長し

土浦の街にも貢献することで地域愛を育む

03

手段



ボランティア活動

- ・ 土浦れんこんフェス 共催 (2023.11.25,26)
- ・ 関東選抜ヨット大会 協力 (2024.3.24)
- ・ 夏休み子ども文化教室 主催 (2024.8.21,28)
- ・ 小児がん支援レモネードスタンド (2024.9.7)

地域の方々とふれあいながら、
コミュニケーション能力や自己肯定感を育み
地域へも貢献する。

03

放課後子ども食堂（手段）

放課後子ども食堂

日時：毎月1回（原則第2火曜日）16:00～

場所：東部ガスGasta LIFE STUDIO

土浦市男女共同参画センター

高校生ボランティアが、未就学児から中学生の子どもとその保護者を支援。調理から提供、学習支援まで、すべて高校生が行うことが特徴。

高校生による学習支援や、フードパントリーも実施。



03

放課後子ども食堂（手段）

一緒に料理を作る

一緒に調理をすることで、コミュニケーション能力や、レシピの手順を見て調理を進めることで課題解決能力が育まれる。

また、子どもたちが自分たちが作ったご飯を、おいしいと言って食べてくれることで、自己肯定感も向上する。



03

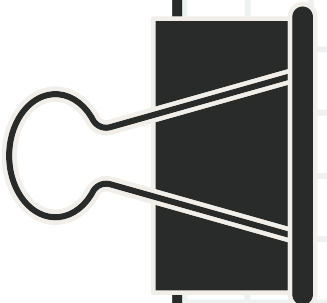
放課後子ども食堂（手段）

高校生が子どもたちに教え・遊ぶ

年齢の近い高校生だからこそ、子どもたちも楽しく勉強できる。勉強が終わったら、カードゲームやお絵かきで一緒に遊んだりして、高校生のお兄さんお姉さんと触れ合ったことは良き思い出に。

高校生にとっても、子どもたちに勉強を教えることで、コミュニケーション能力や自己肯定感を育むことができる。





03

手段

各種メディアで紹介

「子供を笑顔にしていきたい」

満足そうにカレー
イスを揺るる児童ら



この取り組みは、つづば国際大高(土浦市真鍋)の講師、酒井慶太(さん)が代表を務める団体「土浦わかものまちプロジェクト」が主催、同校の「ボランティア会」に所属する生徒11人が参加した。

食事と居場所の提供、学習支援も



「放課後子ども食堂」を訪れた児童らに手作りカレーを振舞うつづば国際大高の生徒(左) 11人、いずれも土浦市大和町

食堂に関する問い合わせは酒井さん(090・78200・4128)。

土浦市の高校生が中心となって月に一度運営する「放課後子ども食堂」が、JR土浦駅前の土浦市役所が入る複合ビル(同市大和町)にお目見えした。子供の食事や居場所を提供するほか、学習支援も行う。21日の「店開き」には親子ら26人が来場し、生徒たちは「子供を笑顔にしていきたい」と地域貢献の意識を高めていた。

土浦の高校生ら 子供食堂を運営

生に社会課題に対する意識を高めてもらうとともに、乗せたカレーライス、調理部ガスのキッチンを借り、食材を切ったり、煮込んだり、

りといった作業は生徒が全て担当した。つづば国際大高2年の小島健汰(さん)は「生産量日本一の土浦のレンコンや野菜のおいしさを知ってもらい、子供を笑顔にさせたい」との意気込みで腕をふるった。

食事や学習支援は市役所研修室を使用した。子供食堂開設のチラシを見て、母親と訪れた小学1年伊藤慶ちゃん(7)と幼稚園児の千真ちゃん(4)の兄弟は「カレーは甘口で食べやすくおいしい。高校生のお絵描きも楽しかった」と満足そうなお顔をみせた。

学習支援を担当し、宿題を見たり、かけ算の問題を作ったりと子供たちの世話をした2年の渡辺優月(さん)は「私は未っ子なので子供を遊んであげるの経験はいい経験になったし、元気いっぱいの子供に私も勇気づけられた」とうなずいた。

酒井さんは「たぐさんの子供が来てくれて、居場所を求めているのだなと実感した。子供と高校生は年齢が近く、お互いに楽しむ姿が見られてよかった」と話していた。

↓産経新聞(令和5年11月28日)

高校生主体、子ども食堂



子ども食堂をPRするつづば国際大高の生徒と酒井慶太講師＝土浦市大和町

つづば国際大高生10人

取り組みは同校講師の酒井慶太(さん)が代表のまちづくり団体「土浦わかものまちプロジェクト」が主催。ボランティア会がこれに加わっ

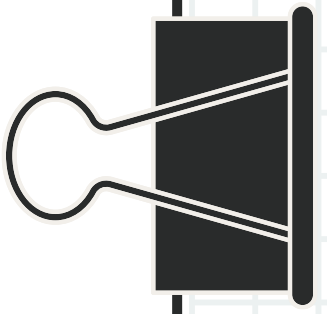
高校生が主体となって子ども食堂を実施する取り組みが21日、土浦市のJR土浦駅前のウララビルで開かれる。つづば国際大高(同市)の「ボランティア会」に所属する生徒約10人が、平日夕方の駅前で安価な食事と居場所を提供。小中学生向けの学習支援も併せて行う。生徒たちは他の子ども食堂で調理などを練習し「多くの人に集まってほしい」と準備を進めている。

21日、土浦駅前 小中学生に学習支援も

に体験してもらえれば」と希望する。食事は土浦特産のレンコンが入ったポークカレー。NPO法人「茨城NPOセンター・コモンズ」(水戸市)の補助金とJA水郷つくば(土浦市)の食材提供などを受け、50食を提供する。価格は中学生以下100円、高校生以上300円。会場はウララビル2階の東部ガスショールーム。食事や学習は同じフロアの市役所研修室を使用する。運営に参加する3年の尾崎優菜(さん)18は、大学進学して教育心理学を学ぶという。多くの人の話を聞き、自分の価値観を広げられたいと話す。小神野拓佳(さん)17は「料理が好きで、さまざまな年代の人と関わるのも好き。コミュニケーション能力を高めた」と語った。

東京新聞(11月16日)・時事通信(各種地方紙掲載)
NHKラジオ第1「まんまる」出演・ラヂオつくば出演

↓茨城新聞(令和5年11月16日)



07

ウェルビーイングを創る

子ども食堂が創出した価値

学校

コミュニケーション能力
自己肯定感の向上
奉仕の精神を養う
社会課題への意識向上
地域愛の醸成

地域

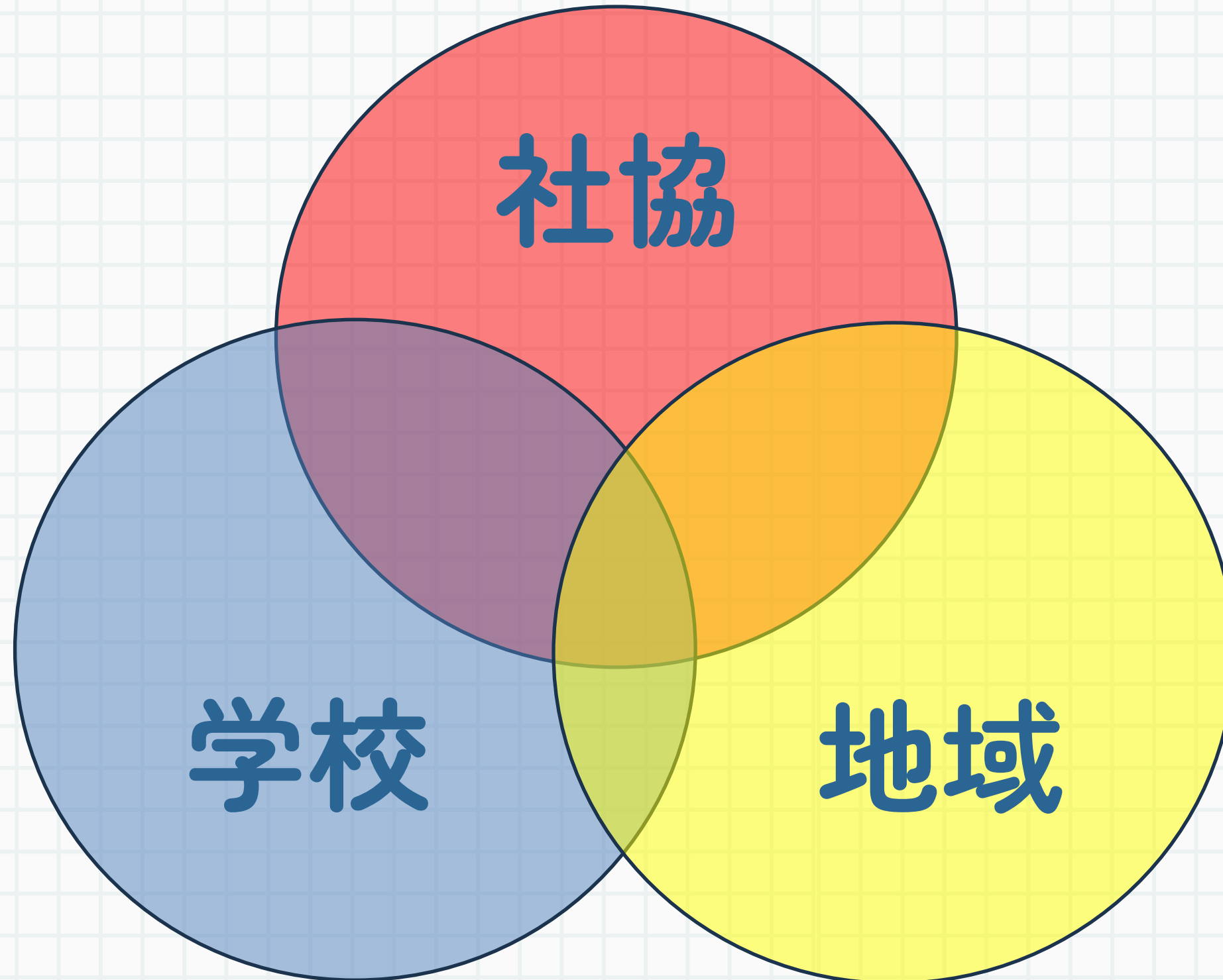
ひとり親世帯の支援
学習・遊びの場
コミュニティの増加
支援の輪をつなぐ

社協

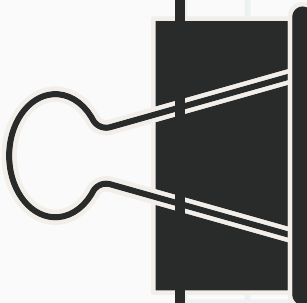
子ども食堂の拡充による
地域福祉の充実

福祉に関する経験とネットワークの広さ

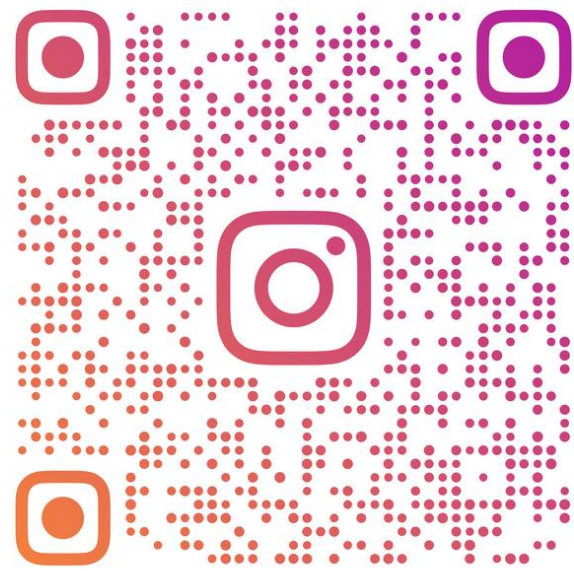
生徒の成長
若い力



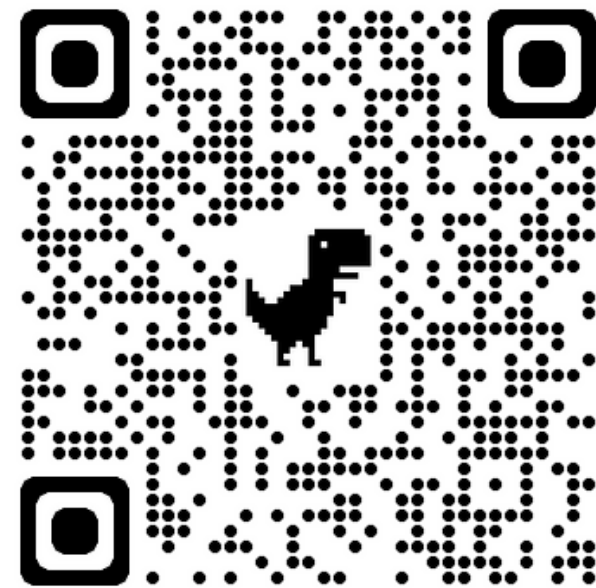
支援を必要とする人
協力したい人
多様なヒト・モノ



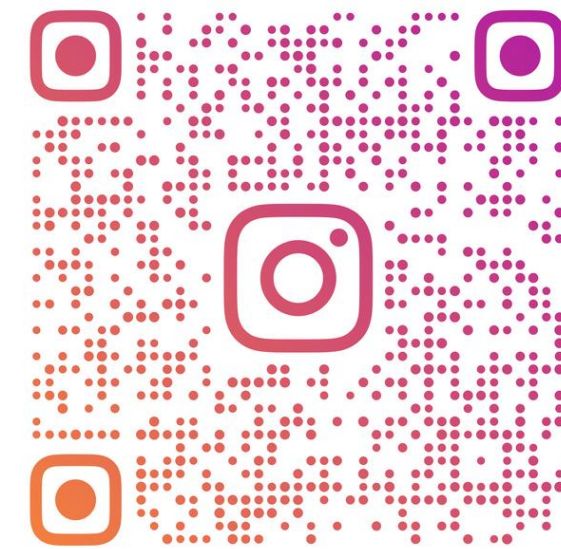
ご静聴ありがとうございました！



代表Instagram



HP



Instagram

皆さんの応援が私たちのパワーに変わります！
わかもののまち、地域で子どもたちを育てるまちを創るため
様々な活動をしておりますので
ぜひ、SNSのフォローをよろしく願いいたします！